

令和七年五月十四日提出
質問第一八七号

エンゲル係数に関する質問主意書

提出者 長友よしひろ

エンゲル係数に関する質問主意書

エンゲル係数は「消費支出に占める食料費の割合」であり、国民の消費生活の現状を示す一つの指標とされ、一般的には「生活の豊かさを示す」（平成三十年一月三十一日の参議院予算委員会における小川敏夫委員発言）指標とされている。総務省の家計調査によると、令和六年のエンゲル係数は二十八・三％と、昭和五十六年以来四十三年ぶりの高水準となったことが報じられている。

こうした状況を踏まえ、次の事項について質問する。

一 政府は、世帯における消費や収入など家計収支の実態を明らかにするために総務省が毎月実施している家計調査において、エンゲル係数を公表している。

過去の政府答弁では、「エンゲル係数につきましては、御指摘のように豊かさということもありますけれども、経年変化の中には、物価変動だけではなくて、例えば共働き世帯が増えたと、調理食品、いわゆる価格の高いものを購入したりとか、また高齢世帯が増えますと、おのずと食料費以外の支出が減少するということでエンゲル係数は上昇すると、様々考えられています」（同委員会における野田総務大臣（当時）答弁）とされており、時代とともにライフスタイルや食生活習慣の変化があるために、数字の変化そ

のもので一律に何かを読み取れるわけではないと考えているものと認識している。

その上で、エンゲル係数を統計としてとり続ける理由及び意義について、政府の見解をそれぞれ示されたい。

二 冒頭に述べたとおり、近年エンゲル係数が上昇している。「エンゲル係数を下げる対策」そのものを政府で行っているわけではないと認識しているが、その上で、近年エンゲル係数が上昇していることの要因をどのように分析し、それに対してどのような対策を講じているのか、政府の見解をそれぞれ示されたい。

右質問する。

令和七年五月二十三日受領
答弁第一八七号

内閣衆質二一七第一八七号

令和七年五月二十三日

内閣総理大臣 石破 茂

衆議院議長 額賀福志郎 殿

衆議院議員長友よしひろ君提出エンゲル係数に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員長友よしひろ君提出エンゲル係数に関する質問に対する答弁書

一について

エンゲル係数（家計調査における消費支出全体に占める食料の支出額の割合をいう。）は、同調査が開始された昭和二十八年には公表しており、現在も、様々な調査研究等において利用されていることを踏まえ、同調査の結果を利用する者の利便性の確保を目的として、公表しているものである。

二について

お尋ねの「近年」の具体的に意味するところが必ずしも明らかではないが、令和五年及び令和六年に係るお尋ねの「要因」の主なものの一つは、食料価格の上昇であると考えている。また、お尋ねの「どのような対策を講じているのか」については、令和七年一月二十四日の施政方針演説において、石破内閣総理大臣が「賃上げの効果が出るまでの間にも物価高対策を講じます。地域の実情に応じて、エネルギーや食料品価格の高騰に苦しむ方々、価格転嫁が困難な中小企業、学校給食費への支援等を行う重点支援地方交付金や、低所得者世帯の方々に対する給付金など総合経済対策で決定した施策を迅速に執行してまいります。」と述べているところであり、これらを含む様々な施策を講じているところである。